

3 国際スポーツ大会の誘致・開催

都民のスポーツへの関心喚起や東京のプレゼンス向上に向けて積極的に国際大会の誘致、開催を推進する。

(1) 各種スポーツ大会・スポーツイベント

ア 東京マラソン 2025

東京マラソンは、東京の魅力を国内外に発信するとともに、スポーツ振興や地域活性化の契機とすることを目的に、国内外からのランナーをはじめ、ボランティアや沿道の観衆など多くの人が参加し、「東京がひとつになる日。」として開催されている。

また、平成 24 年にはワールドマラソンメジャーズ（現アボット・ワールドマラソンメジャーズ）に加入し、世界 6 大マラソンの一つとして認定されるなど、名実ともに世界最高峰の大会に成長した。

※ 一般財団法人東京マラソン財団との共催により実施

(ア) 東京マラソン2025

- ・日 程 令和 7 年 3 月 2 日（日）
- ・定 員 マラソン：37,500 人 10.7km：500 人
- ・コ ー ス 東京都庁～水道橋～上野広小路～神田～日本橋～浅草雷門～両国～門前仲町～銀座～田町～日比谷～東京駅前・行幸通り
(日本陸上競技連盟/公認コース、
ワールドアスレティックス・A I M S / 認証コース)



©東京マラソン財団

東京マラソン2025コース図



©東京マラソン財団

東京マラソン2024フィニッシュ写真

(イ) 東京マラソンE X P O 2025・ランナー受付

- ・日 程 令和 7 年 2 月 27 日（木）～3 月 1 日（土）

【令和 5 年度実績】

<東京マラソン2024>

- ・日 程 令和 6 年 3 月 3 日（日）
- ・出 走 者 マラソン：36,658 人、車いす：39 人
10.7km：265 人、10.7km車いす：3 人
- ・完 走 者 マラソン：35,411 人（完走率96.6%）、
車いす：32 人（完走率82.1%）



10.7km：264人（完走率99.6%）

10.7km車いす：3人（完走率100%）

<東京マラソンEXPO 2024・ランナー受付>

・日程 令和6年2月29日（木）～3月2日（土）

イ マラソン祭り（ランナー応援イベント）

東京マラソンを「単なる大規模マラソンにとどめることなく、東京の魅力を世界に発信できる祭典にしていく」という理念の下、東京マラソンの開催に合わせ、地域の人々が参画した様々なイベントを展開する。

- ・コース沿道応援イベント（東京マラソンコース沿道における音楽演奏、ダンス、伝統芸能等のパフォーマンスによる応援）
- ・メイン会場イベント（スポーツ体験、観覧イベント等の実施）

【令和5年度実績】

<コース沿道応援イベント>

コース沿道の19会場にて、地元団体、都民等が参加しランナーを応援（92団体、約2,200人）

<メイン会場イベント>

皇居外苑にて、パブリックビューイング、ステージイベント、スポーツ体験コーナー等を実施（来場者数 約2,200人（マラソンランナーを除く））

ウ 東京レガシーハーフマラソン 2024

東京2020大会のレガシーを末永く残していけるよう、パラリンピックマラソンコースを活用した「東京レガシーハーフマラソン」を、一般財団法人東京マラソン財団とともに2022年秋に創設した。

本大会は、障害のある方を含め、一般ランナーからエリート選手まで多くのランナーが参加しやすいハーフマラソン大会として開催されている。

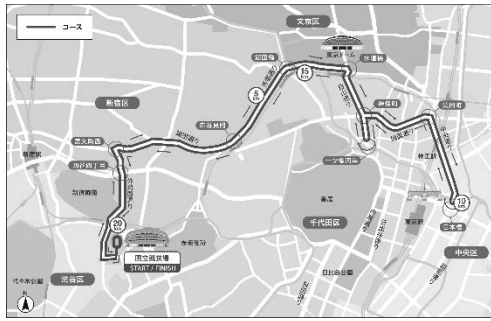
※ 一般財団法人東京マラソン財団（主催）との共催により実施

（ア）東京レガシーハーフマラソン2024

- ・日程 令和6年10月20日（日）
- ・定員 15,000人
- ・コース

国立競技場スタート～富久町～水道橋～神保町～神田～日本橋（第一折り返し）～神田～神保町～一ツ橋河岸（第二折り返し）～神保町～水道橋～富久町～国立競技場フィニッシュ

（日本陸上競技連盟/公認コース、ワールドアスレティックス/認証コース）



©東京マラソン財団

東京レガシーハーフマラソン2024 コース図



©東京マラソン財団

東京レガシーハーフマラソン2023 フィニッシュ写真

(イ) 東京レガシーハーフマラソンEXPO 2024・ランナー受付

- ・日程 令和6年10月18日(金)、19日(土)

【令和5年度実績】

<東京レガシーハーフマラソン2023>

- ・日程 令和5年10月15日(日)
- ・出走者 ハーフマラソン：12,309人 車いす：14人
- ・完走者 ハーフマラソン：11,479人(完走率93.3%) 車いす：12人(完走率85.7%)

※ 第2回大会である東京レガシーハーフマラソン2023は、パリ2024オリンピック日本代表選手選考競技会「マラソングランドチャンピオンシップ(MGC)」と同日開催した。

<東京レガシーハーフマラソンEXPO 2023・ランナー受付>

- ・日程 令和5年10月13日(金)、14日(土)

(ウ) 東京レガシースタジアム 2024【新規】

- ・日程 令和6年10月18日(金)、19日(土)、20日(日)
- ・内容 レガシーハーフマラソンの開催趣旨に合わせて、スポーツ経験や年齢、性別、障害の有無に関係なく、誰もが楽しめるイベントを開催

エ GRAND CYCLE TOKYO

環境にやさしく、健康にもよい自転車を更に身近なものとするため、「GRAND CYCLE TOKYO」という名前の下、様々な自転車に関するイベント等を進めている。

令和6年度は、自転車ライドイベントの「レインボーライド」について、ロングコースを令和5年より約3km延伸して、約35kmに変更する。あわせて、子供から大人まで様々なスポーツ体験が楽しめるイベント「マルチスポーツ」も同日に開催する。

また、東京2020大会の自転車ロードレースが多摩地域において開催されたことから、そのレガシーを未来に繋ぐため、自転車ロードレース「THE ROAD RACE TO KYO」を開催する。



(ア) レインボーライド

- ・日 程 令和6年12月1日(日)
- ・コ ー ス ロング(約35km)、ミドル(約19km)、ショート(約8km)
- ・定 員 約6,000人

(イ) マルチスポーツ

- ・日 程 令和6年12月1日(日)
- ・会 場 青海フィニッシュ地点
- ・内 容 様々なスポーツ・VR体験、競技デモンストレーション 等

(ウ) THE ROAD RACE TOKYO

- ・日 程 令和7年7月13日(日) 予定
- ・会 場 スタート会場 武蔵野の森公園
フィニッシュ会場 青梅市内を予定



【令和5年度実績】

<レインボーライド>

- ・日 程 令和5年11月23日(木・祝)
- ・走 行 者 約4,500人(ロング・ミドル・ショートコース合計)

<マルチスポーツ>

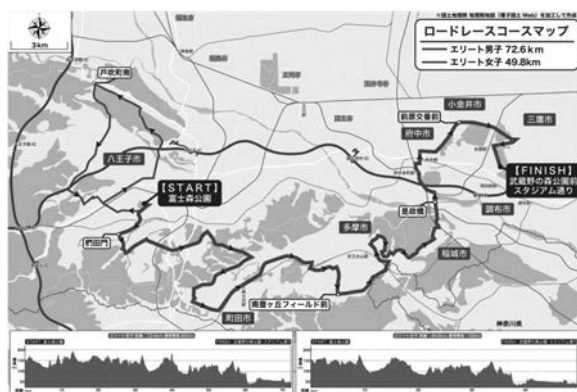
- ・日 程 令和5年11月23日(木・祝)
- ・来 場 者 約15,000人

<THE ROAD RACE TOKYO TAMA 2023>

- ・日 程 令和5年12月3日(日)
- ・コ ー ス 下図のとおり
- ・カテゴリー エリート、パラサイクリングタンデムタイムトライアル
- ・参加選手

エリート男子 26チーム 113人/女子 23人

パラサイクリングタンデムタイムトライアル 男子5か国 6組/女子3か国 3組



<チャレンジレース in 味スタ>

- ・日 程 令和5年12月2日(土)

- ・会 場 味の素スタジアム構内外周路特設コース
- ・内 容 スポーツサイクル初心者から愛好家まで、一般サイクリストが参加できる各種レース体験プログラム（サイクルスクール・ガイド付きショートレース・80分サイクルマラソン等）
- ・参 加 者 528人

<STADIUM FESTA>

- ・日 程 令和5年12月2日（土）、3日（日）
- ・会 場 味の素スタジアム
- ・内 容 地域の特産品、グルメ、自転車関連ブースの出展 等
- ・来 場 者 約13,400人（2日間合計）

<GRAND CYCLE TOKYO CARAVAN>

- ・内 容 自転車の活用促進及び安全啓発を図るため、区市町村事業と連携し、ニーズを踏まえた各種サイクルイベント（子供自転車教室、バーチャルサイクリング、BMX体験等）を実施
- ・実 施 数 20回
- ・来 場 者 約6,800人（20回合計）

(2) 国際スポーツ大会の誘致・開催支援

ア 国際スポーツ大会の誘致・開催支援

東京のスポーツ振興及び都市のプレゼンスの一層の向上を図るため、都内で国際スポーツ大会の開催を目指す競技団体等に対し、大会の誘致検討のための調査等、誘致活動及び開催を支援する。

【令和6年度支援事業の概要】

	誘致支援（令和2年度から開始）	開催支援（令和3年度から開始）
主な申請要件	①都内で開催 ②国際競技連盟が主催・公認し、公益財団法人日本オリンピック委員会・公益財団法人日本スポーツ協会・公益財団法人日本パラスポーツ協会・日本パラリンピック委員会の各加盟競技団体等、国内統括競技団体が主催・共催・主管 ③観客1万人以上又は参加国10か国以上 ④「する」「みる」「支える」各々の活動の促進に繋がるよう、都と連携したスポーツ振興事業を実施し、参加者へのアンケート調査を実施 ⑤令和7年度末までに開催地が決定	①～④同左 ⑤令和6年度内の東京開催が決定している大会
支援内容	経費支援（上限400万円）※、応援レターの発出等	経費支援（誘致支援額を含め、上限3,000万円）※、東京都広報媒体による大会PR等

対象経費	誘致活動に係る経費（広報宣伝費、印刷製本費、翻訳費、渡航費・宿泊費等）	会場関係費（会場借上費、会場設営費及び機材費）、警備・安全対策費（感染症対策費を含む）、競技運営費、広報宣伝費、その他大会開催に不可欠な経費
------	-------------------------------------	--

※経費支援は対象経費の2分の1を支援

	調査等支援（令和5年度から開始）
支援内容	経費支援（上限300万円）、都立施設との連絡調整等
対象経費	国際大会の誘致を検討するために必要な調査等に係る経費（渡航費、宿泊費、通訳・コンサルタント・専門家等の人件費、委託費等）

【令和5年度実績】

（誘致支援）

競技	大会名	開催時期	会場
トライアスロン・パラトライアスロン	アジアトライアスロンカップ(2024/東京・海の森)/アジアトライアスロンパラカップ(2024/東京・海の森)	令和6年9月22日～23日	海の森水上競技場
硬式テニス	ITF World Tennis Masters Tour World Championships 2024	令和6年11月17日～30日	有明テニスの森公園テニス施設

（開催支援）

競技	大会名	開催時期	会場
車いすラグビー	三井不動産2023ワールド車いすラグビー アジア・オセアニア チャンピオンシップ	令和5年6月29日～7月2日	東京体育館
視覚障害者柔道	IBSA柔道グランプリ大会東京2023	令和5年12月4日～5日	東京体育館
カヌースラローム	2023アジアカヌースラローム選手権大会・アジア大陸予選会 兼 第46回NHK杯全日本カヌースラローム競技大会	令和5年10月27日～29日	カヌー・スラロームセンター
スケートボードストリート	World Skateboarding Tour Tokyo Street 2023 World Championship	令和5年12月13日～17日	有明コロシアム

（調査等支援）

公益社団法人日本ラクロス協会、一般社団法人日本アームレスリング連盟、一般社団法人日本ドラゴンボート協会、一般社団法人日本フライングディスク協会

イ 国際大会の誘致に向けた海外発信

国際スポーツ大会の更なる誘致に向け、東京のスポーツ資源と都市の魅力を紹介するPRツールを制作、特設ウェブサイトやスポーツ関係者が集まる国際会議等で発信する。

（国際会議等での発信）

- ・スポーツアコードワールドビジネスサミット2024（バーミンガム市）
- ・パリ2024オリンピック競技大会 TEAM JAPAN HOUSE（パリ市）
- ・パリ日本文化会館における「日本のパラスポーツの歩みと今」展への協力（パリ市）

※パリ2024パラリンピック競技大会に合わせて開催

【令和5年度実績】

(国際会議等での発信)

- ・スマートシティ&スポーツサミット2023(パリ市)

(3) 東京2025世界陸上・東京2025デフリンピック

ア 東京2025世界陸上

令和4年7月、世界陸上競技選手権大会の令和7(2025)年の開催地が東京に決定した。東京都は、大会の招致主体である公益財団法人日本陸上競技連盟(以下「日本陸連」という。)や、公益財団法人東京2025世界陸上財団(以下「世界陸上財団」という。)などの関係者と連携し、大会の準備・運営に協力していく。

(ア) 大会概要

世界陸上競技選手権大会は、ワールドアスレティックス(WA)が主催し、2年毎に開催される、陸上競技の世界最高峰の大会である。第1回は1983年にフィンランドのヘルシンキで開催され、2025年の大会は20回目の大会であり、東京での開催は1991年以来、日本での開催は2007年大阪大会を含めて通算3回目となる。過去大会においては、テレビやライブ配信等により世界で約10億人が視聴し、3,000名規模のボランティアが参加している。

- ・日程: 2025年9月13日～21日
- ・種目数: 49種目(男子24種目、女子24種目、男女混合1種目)
- ・選手数: 約210か国・地域、約2,000人
- ・競技会場: 東京・国立競技場(マラソン、競歩は都内で実施)

(イ) 大会の準備運営体制

都と世界陸上財団は、大会準備・運営を着実に進めるため、世界陸上財団が大会準備・運営に関すること及びガバナンス確保等の適切な組織体制の構築に関することを担い、都はそれらに対する必要なサポートを行っていく。

東京2025世界陸上の成功に向けては、都民・国民からの信頼が重要であり、世界陸上財団においては、ガバナンス確保のため、外部有識者を含む契約・調達管理委員会の設置、実効的な監査体制及び手法の導入、情報の積極的な公開などに取り組んでいる。

また、都、世界陸上財団、日本陸連で外部有識者を含む「契約・調達管理会議」を設置し、予算及び契約調達事務の適正な執行を確認している。

都は、大会運営組織に対して必要なサポート等を実施し、東京2025世界陸上の成功及びその先につながるレガシーの創出に向け、準備を進めていく。

(ウ) 大会準備状況

令和5年11月、世界陸上財団が、大会の成功に向けて着実に準備を進めていくため、ミッションや大会開催ビジョンなどの基本方針、大会運営などについて記載した大会開催基本計画を策定した。同年12月、世界陸上財団において、この大会開催基本計画の考え方を具体化するために必要な計画額を取りまとめ、財政計画を策定した。

世界陸上財団は、大会開催500日前の節目である令和6年5月1日から1か月間を「500 Days to Go! 開催まであと500日!」キャンペーン期間と位置付けて、公式サイト内で、東京2025世界陸上ファンID登録の受付を開始するとともに、チケット販売概要、ボランティア募集の概要及び大会ロゴを発表した。

また、令和6年8月、大会競技日程が発表され、チケットの先行販売が開始した。



イ 東京2025デフリンピック

令和4年9月、デフリンピックの令和7（2025）年の開催地が東京に決定した。都は、スポーツ振興に加え、ユニバーサルコミュニケーションの促進など、共生社会の実現に寄与するといった大会の開催意義を踏まえ、本大会の招致主体である一般財団法人全日本ろうあ連盟（以下「全日本ろうあ連盟」という。）などの関係者と連携し、大会の準備・運営に協力していく。

(ア) 大会概要

デフリンピックは、国際ろう者スポーツ委員会（以下「ICSD」という。）が主催し、4年毎に開催されるデフアスリートを対象とした国際総合スポーツ競技大会である。第1回は、1924年にフランスのパリで開催され、2025年の大会は、100周年の記念すべき大会であり、日本では初めての開催となる。手話のほか、スタートランプや旗などを使った視覚による情報保障が特徴である。

- ・ 日 程：2025年11月15日～26日
- ・ 競 技 数：21競技（陸上・水泳・卓球など）
- ・ 選 手 数：70～80か国・地域、約3,000人
- ・ 競技会場：主に都内会場、サッカーは福島県、自転車は静岡県で実施予定

(イ) 大会の準備運営体制

都と全日本ろうあ連盟は、大会準備運営にかかる業務の分担を行っている。大会開催に係る I C S D の窓口などの役割を、全日本ろうあ連盟が担い、競技・会場運営などの運営実務を、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団（以下「スポーツ文化事業団」という。）が担う。

関係者間における情報共有、調整・協議、必要な助言等を行う場として、全日本ろうあ連盟により令和 5 年 2 月に「2025 年デフリンピック大会に係る大会準備連携会議」が設置された。全日本ろうあ連盟、都、スポーツ庁、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本パラスポーツ協会、弁護士、公認会計士で構成され、情報共有などを行っている。

また、都、全日本ろうあ連盟などで外部有識者を含む「契約・調達管理会議」を設置し、予算及び契約調達事務の適正な執行を確認している。

(ウ) 大会準備状況

令和 5 年 9 月、大会エンブレムのデザインを決定し、同年 11 月には、大会開催基本計画を策定し、「デフスポーツの魅力や価値を伝え、人々や社会とつなぐ」、「世界に、そして未来につながる大会へ」、「誰もが個性を活かし力を発揮できる”共生社会の実現」を大会ビジョンに掲げた。

令和 5 年 12 月、この基本計画の考え方をもとに、大会の成功や大会後のレガシーの創出に向け、大会開催に必要な計画額を取りまとめた。令和 6 年 3 月には、より多くの方々や企業等が参画し、一緒に大会を創り上げていくための取組として、寄附及び協賛の受付を開始した。

令和 6 年 6 月、各自治体等のキャラクターによる「東京 2025 デフリンピック 応援隊」を結成し、都のスポーツ推進大使である「ゆりーと」を公式マスコットとした。

また、都は、大会の成功に向け、情報保障の充実や気運醸成などを行うとともに都内の国際手話人口の裾野拡大を図るため、令和 5 年度から東京都国際手話普及促進事業を実施している。なお、令和 5 年度は、当事業において、延べ 331 人の国際手話講座の受講費用を助成した。



東京2025デフリンピック 大会エンブレム



東京2025デフリンピック
公式マスコットゆりーと

ウ 2025年に向けた取組

(ア) ビジョン2025の実現に向けた取組

「ビジョン2025 スポーツが広げる新しいフィールド」は、東京2025世界陸上及び東京2025デフリンピックを通じ、スポーツの力によって東京の未来を創るため、都が目指す姿を、ビジョンとしてまとめたものである。【再掲】

さらに、本ビジョンの実現に向けて、両大会を通じて取り組んでいく方向性や、主な内容などをまとめた指針として、「3つのConcept」と「Sportsプロジェクト+10のAction」から成る「ビジョン2025 アクションブック」（以下「アクションブック」という。）を、令和6年1月に策定した。

<アクションブックの概要>

【3つのConcept】

- ・東京2020大会のレガシーを継承・発展
- ・両大会一体となってウェルネスの向上や社会変革を推進
- ・2025年を機に、東京に新たなレガシーを創出

【Sportsプロジェクト】

- ・スポーツの価値を再認識 — 推しスポーツProjectの展開

スポーツの魅力に触れる中で、「都民一人ひとりの好みや特性に合ったスポーツの楽しさ（推しスポーツ）」を発見してもらえるように支援

【10のAction】

「ビジョン2025」における5つの柱の下に、様々なActionを設定

- ・みんなが つながる
 - ①大事な情報、伝える工夫 ②デジタルで拓く東京の未来
 - ユニバーサルコミュニケーション技術の社会実装の促進など
- ・世界の人々が 出会う
 - ③芸術文化に触れ、感じる ④世界に東京の魅力をPR
 - 2025年に向けたアートプロジェクトの展開など
- ・こどもたちが 夢をみる
 - ⑤2025 for キッズ ⑥2025 with キッズ
 - 大会ロゴや大会エンブレムのデザインへの子供たちの参画など
- ・未来へ つなぐ
 - ⑦みんなで守る、みんなの環境 ⑧共に生きる未来を創る
 - 東京2025デフリンピック応援アンバサダーやデフリンピック学習ハンドブックを通じた共生社会の大切さの発信など
- ・みんなで 創る
 - ⑨Make it together 2025 ⑩知って、楽しんで、応援しよう！

ー多様な人がボランティアとして活躍できる機会の提供など

今後、各局等と連携しながら、アクションブックに記載した取組等を展開していくとともに、大会本番時の具体的な事業内容や大会後のレガシー創出に向けた取組等に関する検討・調整を行っていく。

(イ) 気運醸成

東京2025世界陸上及び東京2025デフリンピックの開催に向け、令和5年度は、両大会の意義や魅力を多くの人に知ってもらうため、大会特設サイト等での情報発信に加え、世界陸上については、開催2年前に「TOKYO FORWARD 2025シンポジウム」を開催した。

デフリンピックについては、幅広い世代に訴求力のあるアンバサダーの起用や、大会2年前の節目には、きこえる・きこえないに関わらず誰もがつながることができるコンセプトカフェ「みるカフェ」を実施した。加えて、デフリンピックや手話に親しんでもらえるよう、学習ハンドブック「学ぼう！デフリンピック」やダンス楽曲「しゅわしゅわ☆デフリンピック！」を制作し、イベント等で活用した。

令和6年度は、より幅広い都民の関心を喚起するため、両大会1年前の機を捉えたイベントをはじめ、子供たちとアスリートとの交流会の実施、大会への応援メッセージの収集など様々な取組を進めていく。



TOKYO FORWARD 2025 シンポジウム
(令和5年9月13日開催)



誰もがつながることができるコンセプトカフェ
「みるカフェ」(令和5年11月15日～26日開催)



学習ハンドブック「学ぼう！デフリンピック」



ダンス楽曲「しゅわしゅわ☆デフリンピック」

(ウ) ユニバーサルコミュニケーションの促進

大会に海外から多くの選手・観客が訪れる2025年を契機に、「いつでも・どこでも・誰とでもつながる」ユニバーサルコミュニケーションを促進するため、事業者等と連携し、

展示会などを活用したPRとともに、競技会場等における技術活用の実証を行っている。

また、事業者と協働し、障害当事者の声を聞きながら技術開発を促進するため、スタートアップ企業によるピッチコンテストを実施した。

さらに、都庁舎をはじめとする都有施設での技術活用等を通じて、デジタル技術の社会への普及に繋げていく。



CEATECでのPR（令和5年10月開催）



都庁舎に設置した透明ディスプレイ

(エ) 関係機関との連携・協力

世界陸上及びデフリンピックの開催に伴い、開催準備や大会運営上必要となる事項等につき、国（スポーツ庁等）との情報交換を行い、連携、調整を図っている。

また、世界陸上財団及び全日本ろうあ連盟から要請を受け、都から国に要望し、令和6年2月に、都、両大会運営組織に対し、政府として協力する旨、閣議において了解された。加えて、「国の施策及び予算に対する提案要求」を通して、全面的な支援を要求している。

都内区市町村に対しては、世界陸上及びデフリンピックの大会基本情報の周知や大会運営・気運醸成等の取組に関する協力依頼を行っている。

都内区市町村主催のイベントにおいて、両大会のPRや競技を体験・体感できる取組を実施するとともに、両大会の気運醸成に資する区市町村のスポーツイベント等への支援を拡充し、区市町村と一体となった取組を展開していく。

(4) 国際スポーツ大会のガバナンス確保に向けた取組

国際スポーツ大会のガバナンスや情報公開、都の関与の在り方などについて、東京2020大会の経験も踏まえ、将来の国際スポーツ大会に向けた改善を議論するため、令和4年12月に有識者会議を設置した。

その後、意見交換を重ね、有識者からの助言を反映した「国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン」（以下「ガイドライン」という。）を同年12月に策定・公表した。

また、令和5年3月に公表された国の「大規模な国際又は国内競技大会の組織委員会等のガバナンス体制等の在り方に関する指針」等も踏まえ、一層のガバナンス強化を図るため、同年6月にガイドラインを改定した。

ガイドラインを踏まえ、同年11月には、東京2025世界陸上及び東京2025デフリンピックの大会運営組織におけるガバナンス確保に向けた取組状況について、有識者会議において確認、

意見交換を行った。

＜ガイドラインの概要＞（令和４年12月策定）

ア ガイドラインの目的

スポーツの力によって東京の未来を創っていく観点に立ち、国際スポーツ大会の運営組織に対する都の関与のあり方についての基本的な事項を整理した。

イ 大会運営組織への都の関与

都は、下記着眼点を踏まえた大会運営組織の取組の具体化に向け、助言・連携・サポートを実施する。

(ア) 大会運営組織 始動期（ガバナンス確立に向けた体制整備）

- ・役員等の適切な選任
- ・コンプライアンスの確保
- ・内部統制・外部チェック
- ・利益相反の管理
- ・情報公開
- ・その他大会の特性等を踏まえ必要と認められる取組

(イ) 大会運営組織 本格活動期（大会の成功・レガシー具体化に向けた取組）

- ・ガバナンスの実効性の確保と適切な見直し
- ・国際スポーツ大会を通じ東京の発展に寄与
- ・国際スポーツ大会への都民の参画

＜ガイドライン改定の概要＞（令和５年６月改定）

大会運営組織のガバナンスの確保に向けた体制整備について、上記イ(ア)で掲げた着眼点を精査し、大会運営組織の取組例として以下を追加した。

ア 役員等の適切な選任

- ・選任方針及び選任理由等に関する情報の公表
- ・役員等の行動規範・誓約書の公表

イ コンプライアンスの確保

- ・危機管理及び不祥事対応体制の構築（危機管理マニュアルの策定等）
- ・懲罰制度の構築

ウ 予算・契約・調達の内部統制、外部チェックの仕組み

- ・リスクアプローチの監査手法の導入
- ・マーケティング業務の委託等に関する方式の検討経緯や選択理由等の公表

エ 利益相反に伴う問題の防止

- ・専門人材の直接雇用等の対応
- ・民間企業からの出向者の権限の公表

オ 情報公開

- ・都の条例に準じた情報公開制度の導入